まちの施設、新たな活用へ

廃止になった公共施設、今どうなってる？

市内には、役目を終えた公共施設がいくつかあります。「あの施設、今どうなっているの？」と気になっている方もいるのではないでしょうか。現在、民間提案制度などを活用し、それぞれの施設で新たな取り組みが進んでいます。地域の皆さんが参加できるイベントや、利用できる施設も。どのように生まれ変わっているのか、のぞいてみましょう。

旧刈田小学校

広島文理学院

デザイン系学科をメインとした各種学校の新設

美術展や学園祭なども開催したいと夢を膨らませています！

愛甲 芳華さん

2026年度に「広島文理学院」を開校。一期生は29人で、中国、ベトナム、ネパール、パキスタンから来日した学生が学んでいます。コースは「アニメーションデザイン科」「日本語科」「進学科」の3つ。アニメーションデザイン科では、基礎美術からデザイン、漫画、AI生成ツールまで幅広く学習。日本語科では発音や漢字、会話など実践的な日本語を学び、進学科では美術系などの大学や専門学校への進学を目指します。地域との交流にも力を入れ、8月には地域住民と夏祭りを開催。9月末には八千代中学校を訪問し、中学生と英語で交流しました。廃校を学びと交流の拠点として生かし、留学生と地域の人々がつながる場づくりを進めています。

旧郷野小学校

NPO法人 郷野の郷運営委員会

地域活性化につながる教室賃貸マネジメント

まだまだ、いろいろな活用の可能性を感じています！

水藤 邦夫さん

地域のシンボルである旧郷野小学校の木造校舎を、地域活性化の拠点として活用。電気やトイレなどを整備しながら、校舎の維持・保存に取り組んでいます。これまではマルシェや蚤（のみ）の市など、イベント会場としての利用が中心。廊下をコースにした雑巾がけレース「G-1グランプリ」には、毎年約100人が参加します。毎週土日曜には「開放Day」を設け、校舎を自由に見学できる機会も設けています。今後は、地域で活動する団体などへの教室の賃貸にも力を入れ、日常的に人が集う場所へ。さらに、企業の運動会や総会、キャンプ、バーベキューなど、木造校舎や芝生の校庭、体育館を生かした多彩な利用を広げていきます。

旧小田東小学校

一般社団法人 地域QOL研究所

SDGs人財育成プロジェクト

“人財”をキーワードに活動をステップアップさせていきます

田村 眞悠さん

2023年から「SDGs研修センター」の拠点として活用。校舎の裏を流れる大土川など豊かな自然環境を生かし、地域の人や活動を「つなぐ」ことを強みに、人材育成に取り組んでいます。特に今年から力を入れているのが、人が人を呼び、新たなつながりを生み出す「人財」づくりです。オオサンショウウオの観察会やミツマタの植林と和紙づくり、ミニホタル祭り、樹の循環、体育館×キャンプなど、多彩な体験プログラムを実施。参加者は広島県内の子どもたちが中心で、講師も県内で知識や技術を持つ人たちが務めます。さまざまな体験を通して、子どもたちが自信を持ち、学んだことを自分の言葉で伝えられるようになることを大切にしています。

旧来原小学校

有限会社ボデーショップタカタ

Sportscar人馬一体Museum

10:00～16:00は無料で開放しているので気軽にお越しください（月曜日は除く）

佐々木 幸昭さん

今年8月に「Sportscar人馬一体Museum」としてプレオープン。校舎はあえて学校の面影を随所に残しながら、スポーツカーの歴史と魅力を伝えるミュージアムへと生まれ変わりました。館内には、マツダ初代ロードスターの開発を総指揮した平井敏彦さんの功績を伝えるトロフィーや貴重な資料をはじめ、希少な国産スポーツカーやトヨタのコンセプトカーなどを展示。車好きはもちろん、ものづくりに興味のある人や子どもたちも楽しめる場所を目指しています。また、家庭科室を活用した食事処では、定食や麺類、ドリンクなどを提供。「笑顔」と「ありがとう」が生まれる場所をつくり、地域の活性化につなげています。

旧八千代支所庁舎

株式会社FARM HIROSHIMA

植物工場事業

季節や天候に左右されないから収穫量も作業も安定

武田 直弥さん

空調を備えた植物工場へ改修し、2026年1月からフリルレタスやベビーリーフなどを無農薬で水耕栽培。LEDと養液を使い、気温や日照時間、栄養分をコントロールすることで、一年を通して安定した栽培ができるのが特長です。栽培棚は自作し、初期費用を抑えながら、育てる野菜に合わせて改良できるようにしています。収穫した野菜は広島市内の飲食店や、市内はもちろん県内の農産物直売所などで販売。水耕栽培の野菜はみずみずしく、野菜が苦手な子どもでも食べやすいのだとか。今後はトマトやイチゴなどの果菜類の栽培にも挑戦。将来的には、ほかの廃校などへの展開も視野に入れ、地域に新たな農業の可能性を広げていきます。

問財産管理課　管理・修繕係　☎・お太助フォン 42-5613